

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	一般小売店〔土産〕 （店員）	・愛知万博の影響を懸念していたが、実際に見てきて、会場のキャパシティの問題や見る時間の制約、パビリオンの混雑ぶりからかなり厳しさがうかがわれる。その意味でこれから夏の間は北海道観光が期待される。
	やや良くなる	百貨店（役員）	・客の様子をみると、若干ではあるが季節商品、特に衣料品購入時の1人当たりの買上単価が前年を上回り始めている。慎重な買い方ではあるが、まとめでの購入もみられる。
		スーパー（店長）	・全国ベースでの個人消費はやや明るさを示したものの、北海道地区の改善の兆しはいまだに不透明である。しかしながら店頭での顧客動向をみるとやや回復基調に乗りつつあると推測できる。
		スーパー（店長）	・4月は別として、2月から5月まで右肩上がりに販売量が増えているので、今後も少しはこの傾向が続く。
		コンビニ（エリア担当）	・週末を中心に函館地区への観光客の流れが良くなっている。本州からの流れもゴールデンウィークなどは良かったことから、今後も天候条件が悪くならなければ売上はやや回復傾向に進む。
		乗用車販売店（従業員）	・新型車も集い、また収入が減った話を聞かなくなったので、これからの売行きが期待できる。
		高級レストラン（スタッフ）	・7月中には知床が世界遺産に登録されるようであり、少しは明るい話題が出ている。
		通信会社（企画担当）	・客の様子に活気が見えてきた。
	住宅販売会社（従業員）	・北海道新幹線着工の効果で気分的に上向きになってくる。	
	変わらない	商店街（代表者）	・北海道新幹線着工が明るいニュースとなっている。家計動向にはいまだ効果は表れないが、消費者心理としては不景気感が薄れる。
		商店街（代表者）	・今年の夏の気温次第になるが、7～8月のバーゲン時に気温が高くなれば商品が売れる。しかしながら現在でも安い商品が更に安くなったところで、それだけの数が売れるほど、気温の高くなる日が来るかは分からないので何とも言えない。
		百貨店（売場主任）	・郊外の量販店や中心部でも競合店が多くなり、売上の競争が激しくなり、市全体で飽和状態がますます強まっている。売上も分散されているので今後もその状況が続く。
		スーパー（店長）	・販売点数の減少がここ数か月続いており、販促等を強化してもなかなか回復しない状況で景気回復の明るい兆しがみえない。
		コンビニ（エリア担当）	・市町村予算は緊縮型になっており、土木工事を中心に大幅な予算削減となっているため、工事需要やそれに関する需要がかなり大きく減少することが予想される。このため工事現場も減少し、コンビニとしても売上増加は見込めない。
コンビニ（エリア担当）		・失業率の低下など好要因はあるものの、この先の対策については何も変化がない不安から、客の購買行動は決して良くなることはなく、現状が継続する。	
家電量販店（経営者）		・デジタル家電の販売は好調ではあるが、価格の低下が激しく、客もマスコミ報道による買い控えの影響が出始めている。他の商品も買い控えが顕著であり良くなる要素は見当たらない。	
家電量販店（店員）		・気温が上昇することで、夏物商品の動きが良くなる。	
高級レストラン（スタッフ）		・6月は予約状況が良く、来客数、売上ともアップの予定である。ところが7月以降については、予約人数が良いにもかかわらず客単価が低く、売上を落としそうな状況となっている。	
一般レストラン（スタッフ）		・このところ競合店のランチタイムのサービスメニューや割引サービスのチラシの配布が多くなっており、苦戦している様子がうかがえる。	
観光型ホテル（スタッフ）	・本格的なグリーンシーズンを迎え、期待が膨らむが、道内客の動向が依然として低調なことが気がかりである。		
旅行代理店（従業員）	・愛知万博の影響も予想より大きくなかったが、良くなる新たな要因も見当たらない。		
旅行代理店（従業員）	・向こう3か月の受注数も前年と比べて少ない。直前になり多少増加する傾向はあるが、前年を上回る数にはならない見込みである。		

		タクシー運転手	・これから夏季のイベント等の人も予想されるが、ここ数年の経緯をみると今年に限って景気の上昇は期待できない。
		タクシー運転手	・タクシーは景気のパロメーターといわれているが、今、タクシー業界では運転手の1日当たりの収入が最低賃金を下回っている状況にあり、2～3か月で上向くとは考えられない。
		観光名所（職員）	・タクシーの空車率は依然として多く、変化はない。
		観光名所（役員）	・ロープウェイ及びレストランの予約等は堅調であり、平年ペースまでには回復する見込みである。
		美容室（経営者）	・客の購買力が二極化してきているため、より安い価格帯の店に移る客がみられるようになってきた。
		設計事務所（所長）	・北海道新幹線着工という明るいニュースがあるにもかかわらず、建築土木業界が勢いづくような印象は全くない。官に頼らない自助努力が働いている企業が比較的元気な印象がある。
やや悪くなる		百貨店（売場主任）	・クリアランスセールに伴う値下げも一息つき、秋物までの買い控えと、まもなく訪れる冬対策で消費はやや冷え込みそうである。いずれにしても原油価格の動向次第で大きく変動する。
		百貨店（売場主任）	・天候不順もあり、夏物の動きがまだみえない。特に旅行関係の商品の動きは鈍く、高額な宝飾関連も売上としては厳しい状況である。いずれにしても今後の天候に一部左右される。
		スーパー（企画担当）	・北日本の今夏の天候は冷夏が予想されており、また北海道内での特筆される大型イベントも予定されていないことから、消費全般の盛り上がりはほとんどないと考えられる。
		コンビニ（エリア担当）	・天候不順もあるが、ゴールデンウィークも札幌近郊で行楽を済ませるなど、遠出客は少なかったことから、行楽費についても節約している傾向がうかがわれる。
		住関連専門店（従業員）	・今年の夏は冷夏と言われているので、その通りなら売上が落ちる。
		観光型ホテル（経営者）	・天候の影響が顕著に現れている。春の遅れと夏の短さが不安材料である。売店や追加料理、飲物などの付帯収入も、はっきり言って落ち込みが大きい。
		観光型ホテル（経営者）	・依然として愛知万博の影響があるとすれば、当面は前年比での入込客は減少傾向で推移する。また知床の世界遺産指定が7月と聞いており、北海道全体の入込には良い影響を及ぼすが、函館地区には逆にマイナス要因になるのではという懸念もある。
		タクシー運転手	・デパート等での消費が落ち込むなど買物客の減少がうかがわれる。このことから移動人口も減少する傾向にあり、タクシーの利用客が減るのではないかと考えられる。
		美容室（経営者）	・来客数も伸びず、また結婚式や祝事の時も従来と違って普段と同じような格好をするので、今後とも客単価は上がらない。
	悪くなる	タクシー運転手	・道内景気の回復が遅れていることもあるが、規制緩和によりタクシーの台数が増え続けており、利用客が減少している現在の状況で、1台当たりのタクシーの売上がますます減っていくことになる。
企業動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	家具製造業（経営者）	・日本全体としては必ずしも良くはないが、当社のターゲットである住産業ハイエンドマーケットは今後も質的成長を遂げる。
		輸送業（営業担当）	・原材料関係、特に輸入炭、輸入チップが在庫薄状態から配船増となる期待がある。また新規貨物の引き合いも出てきた。
		通信業（営業担当）	・今月の景気と同様に客からの新規案件、増設案件の問い合わせが増加しているため、2～3か月先の景況感としては多少ではあるが上向きの印象を受けている。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・また工事が本格的になっていないので少し停滞気味だが、今期はこれから出てくるものと思われ、工事の活発化を期待している。
	変わらない	輸送業（支店長）	・鉄鋼をはじめとする一部業界及びその関連業界では今後も好調に推移すると思われるが、道内進出企業が少なく、道内企業の設備投資が少ないこと、また、あったとしても現在の鋼材市場では鋼材の手当が今後更に難しくなることが想定され、現状以上の伸びは難しい。

	通信業（営業担当）	・ここ数か月、受注量、取引先の様子に大きな変化はみられないので、今後もしばらく横ばいが続く。
	金融業（企画担当）	・北海道新幹線の着工は明るい材料であるが、今年度に限れば投資額が少ない。原油価格の高騰などは、更に燃料費や素材価格の上昇をもたらす。道内景気が良くなる要素は乏しく、停滞感が続くものとみられる。
	司法書士	・土木建築関連が低迷している中であって、今後の回復は見込める状況ではない。
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・設備投資の引き合いが増加してこない。
	やや悪くなる	
	悪くなる	-
雇用 関連	良くなる	-
	やや良くなる	-
	求人情報誌製作会社（編集者）	・正社員又は準社員など常用雇用の求人依頼が少しではあるが増加傾向にある。
	求人情報誌製作会社（編集者）	・今後2～3か月は例年求人数のピークを迎える。これといったマイナス要因は考えられず、前年比プラス10～20%の状態はここしばらく続く。
	変わらない	人材派遣会社（社員）
		・道内企業の業績も上向いているとは言えず、夏のボーナスもあまり期待できるものになりそうではなく、雇用調整の動きも聞こえてきており、決して環境が良くなるとは考えられない。
		求人情報誌製作会社（編集者）
		・現在の求人数に占める派遣・業務請負業の比率が高く、ここから更に大きな伸びは考えにくい。一方、天候の不順が続いており、北海道の基幹産業である観光や衣料品などの小売業への影響が心配される。
		職業安定所（職員）
		・未充足で有効期間が到来した求人の更新確認を行う際、求人をストップするケースがみられる。
		職業安定所（職員）
		・求人は増加傾向にあるが、そのうち約3分の1はパート求人であり、この割合が増加している。
	やや悪くなる	
	悪くなる	-